

Ⅲ 名蔵湾保護水面（藻場）

調査担当者

杉山 昭博

水産動物の産卵や保育場として重要な機能をもつと考えられる藻場において植物、底生動物、魚類、人工礁、および水質を調査し、生態的メカニズムを把握することに努めた。

各調査地点は図1に示すとおりである。

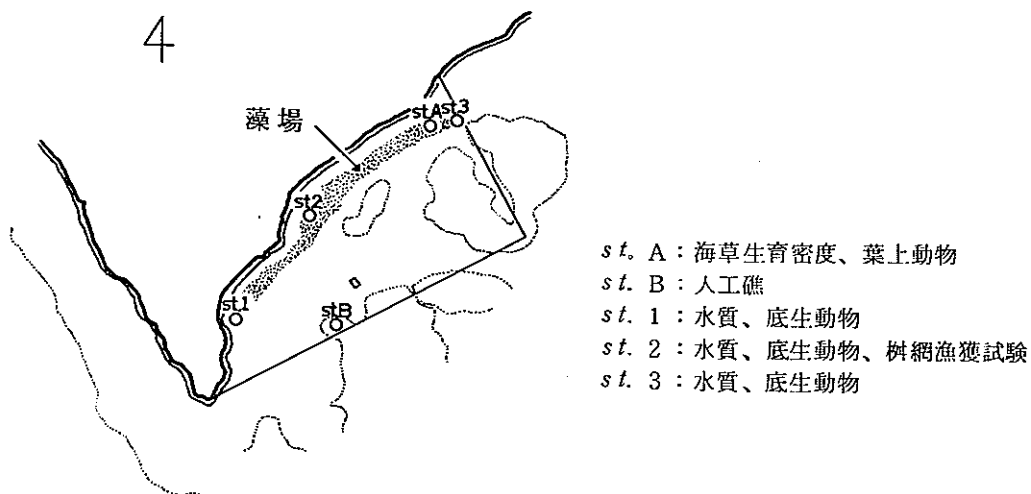


図1 調査地点

1. 植物調査

1984年3月15日から1985年2月7日までの毎月1回、定点（図1）においてリュウキュウアマモとリュウキュウスガモの生育密度を調査して季節的变化を調べた。測定方法は前年度（沖水試、1983）と同様である。

結果は表1と図2に示すとおりである。リュウキュウアマモは前年度の減少傾向が今年も継続し、ほぼ100株/m²以下の水準で漸減する傾向が認められる。また、リュウキュウスガモは前年度と同じく5月から9月頃にかけて多少の増加がみられたが、前年度のピーク時ほどではなかった。したがって全体的に株数の減少が認められ、特にリュウキュウアマモでは顕著であった。

2. 底生動物調査

1984年7月9日と12月4日に定点（図1）において採泥して底生動物を調べた。方法は前年度と同じであるが、調査地点は異なる。

表1 リュウキュウアマモとリュウキュウスガモの生育密度(株/m²)

年月日	方形枠No.	リュウキュウアマモ				リュウキュウスガモ				a+b
		1	2	3	平均(a)	1	2	3	平均(b)	
1984.	3. 15	160	32	48	80	336	464	464	421	501
	4. 21	112	16	32	53	208	512	400	373	426
	5. 12	160	16	32	69	384	688	528	533	602
	6. 4	192	16	16	75	304	832	432	523	598
	7. 2	160	16	32	69	272	832	512	539	608
	8. 13	112	0	64	59	304	784	480	523	582
	9. 13	80	0	0	27	224	912	272	469	496
	10. 8	48	0	48	32	208	592	256	352	384
	11. 21	32	16	32	27	272	528	240	347	374
12. 13	48	16	48	37	208	416	272	299	336	
1985.	1. 9	16	16	32	21	288	512	272	357	378
	2. 7	16	0	32	16	160	400	256	272	288
合計		1,136	144	416	565	3,168	7,472	4,384	5,008	5,573

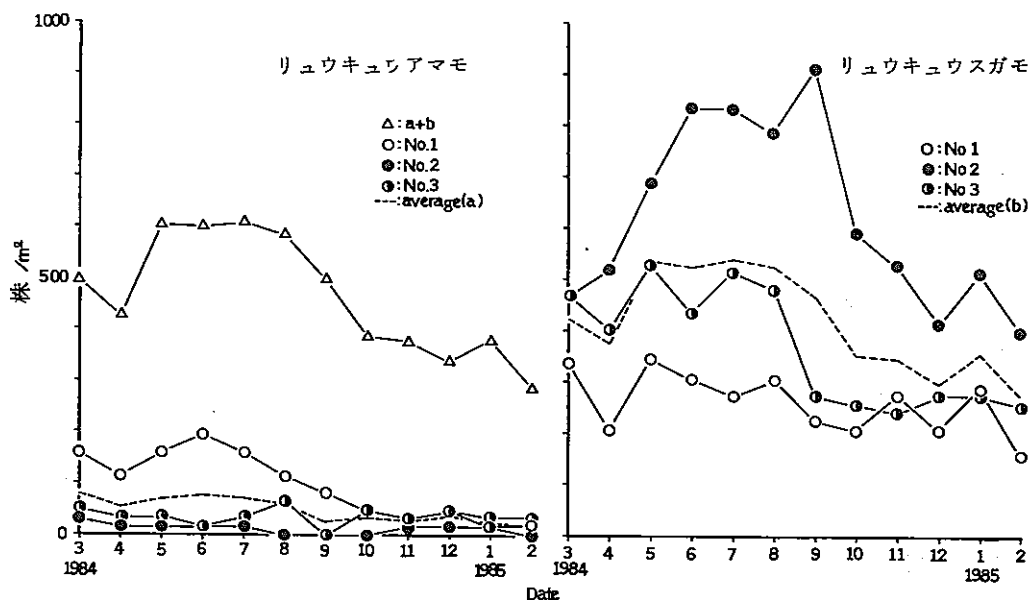


図2 リュウキュウアマモとリュウキュウスガモの生育密度の季節的变化